

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和6年 2月 19日

公表: 令和6年3月6日

事業所名 放課後等デイサービス ポカラポット

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いえない (%)	いいえ (%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等 スペースとの関係で適切で ある	60	40		・活動ごとに部屋や空間を分 ける、活動内容を工夫するな どすることで適切な環境を作 るようにしている。	・利用者の特性をしっかりと 把握したうえで、利用者同士 が適切に距離を保ちながら活 動できるようにしていく。
	2	職員の配置数は適切であ る	70	20	10	・こどもの特性に応じて活動 時のスタッフ配置を工夫して いる。 ・活動内容を工夫し、決めら れた職員数で安全に活動が できるようにしている。	・適切な職員配置人数を保っ てはいるが、今後も活動内容 の見直し、基準を満たす最低 限の人員配置でも質の高い サービスを提供できるように 努力していく。
	3	事業所の設備等について、 バリアフリー化の配慮が適 切になされている	100			・駐車場から療育室までフ ラットにし段差を最小限にし ている。 ・補助が必要なときには臨機 応変に対応ができるようにし ている。	・定期的に事業所内外の点 検を行い、注意すべき箇所を 職員間で情報共有し、注意を 促すような掲示物を貼るなど 視覚的にも注意を促せるよう な工夫をしていきたい。 ・日頃から子どもたちとも点検 を行い、子どもたちの視点で 改善点を考えていけるような 取り組みも行っていきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるための PDCAサイクル(目標設定と 振り返り)に、広く職員が参 画している	60	40		・業務内容を定期的に見直す ため、業務分担の進捗状況 を共有し、業務改善について の話し合いや担当の見直しな どを行っている。	・事業所の状況等を細かく報 告し、各職員が改善していく ための考えをもてるよう意識 改革を続けていく。 ・法人内の職員などからも助 言をもらうなどし、広く参画 できる仕組みを整えていき たい。
	5	保護者等向け評価表を活 用する等によりアンケート 調査を実施して保護者等 の意向等を把握し、業務改 善につなげている	100			・アンケート回収後に結果を 職員間で共有し分析を行って いる。	・改善すべき点についての話 し合いはできているが、実行 したこと、保留になっているも のなどの洗い出しができてい ない。進捗状況の報告もでき ていないため、事業所の取り 組みを利用者や保護者に発 信できる仕組みを考えていき たい。
	6	この自己評価の結果を、事 業所の会報やホームペー ジ等で公開している	70	30		・毎年実施しHPなどで公開し ている。	・周知徹底できるよう努める。

7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20	50	30	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価を受けるまでの体制づくりに着手できていないが、保護者等向け評価表や自己評価の結果を受け、改善努力に努めている。 	
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	70	20	10	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内で合同ミーティングを開くなど、職員の学ぶ機会を設けている。 ・各職員が自発的に研修に参加している。 ・研修に参加した職員より周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に積極的に参加が出来る体制を整える。 ・研修案内などを共有するようしていく。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80	20		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にアセスメントを行い、日々の活動記録や本人、ご家族の意向を反映する放課後等デイサービス計画を作成している ・サービス等利用計画とも照らし合わせて作成している ・送迎時やLINEなどでも適宜相談にのり課題の把握に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度替わりにはアセスメントシートの更新を行うほか、ニーズや課題の変化についても見落としがないよう丁寧に把握するように努力していく。 ・相談支援など関係機関との連携を図りながら、丁寧なアセスメント、計画作成に努めていく。
10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	40	40	20	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの未来をひらく182の社会スキル」というテキストを参考にしている。 ・S-M社会生活能力検査を活用できるように勉強している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・S-M社会生活能力検査を希望される方に実施できるように努力していく。
11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズや課題に対して、職員の専門性が活かされる活動になるよう工夫をしている。 ・各職員が活動案を持ち寄り、話し合い決定していく仕組みを整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に限らず、同法人内の職員や他事業所などにも意見をもらい、多角的に立案できる仕組みを整えていきたい。 ・職員の専門性が活かせる活動の立案ができるように努力していきたい。

適切な支援の提供

12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	90		10	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズ、季節感など様々な情報を収集し利用者の特性を考慮しながら、柔軟に活動内容を考えていくように工夫をしている。 ・利用者の希望によって固定のプログラムを組んでいるが、利用者のニーズや状況の変化に応じて、プログラムの見直しや変更など発展させていくよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携も強化して活動に反映できるよう整えていきたい。 ・幅広く職員から意見をもらい、活動の幅を広げ多角的な支援が行えるよう工夫をしていく。 ・活動の目的や意義などが活動に反映され、職員間で確実に共有できるようにしていく。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	77.8	22.2		<ul style="list-style-type: none"> ・活動時間、利用者の特性、季節、天候等を踏まえて、日ごとの目的や課題、さらには利用者個々の課題を設定して支援している。 ・平日の支援、休日や長期休暇の支援でそれぞれに課題を設定しているが、それぞれを組み合わせる継続的な支援もできるように工夫している。 ・長期休暇でしかできない活動などを取り入れながら、活動の内容に応じた課題や目的を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画で個々の課題の目標を設定しているが、個々の課題が集団活動の中でも支援できるように工夫をしていく。 ・「きめ細やかに」設定するために、個々の課題を常に整理、把握をして、職員間で共有をしていく。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	90		10	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によって個別活動や集団活動での課題を明確にし支援計画を作成している。 ・利用者の意欲や特性などを考慮して、個別と集団の活動を適宜組み合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団、個別それぞれの課題が常に意識され、効果的な支援が行えるよう、職員間で情報共有をし適切な支援が行えるように努めている。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100				

16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	90	10	<ul style="list-style-type: none"> ・その日に行えない場合は、必ず翌日に振り返りなどを行っている。 ・重要事項や緊急を要する事柄については、個人情報の取り扱いに十分配慮して、電話などで確認を行っている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100		
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	70	30	<ul style="list-style-type: none"> ・半年ごとの計画の更新にあたり、必ずモニタリングを実施している。 ・記録や日々の活動の振り返りを通してモニタリングを行い、支援計画の見直しをしている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	70	30	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会性」「コミュニケーション」「社会スキルの習得」に焦点を当てた支援を柱としながら、個々のニーズや課題に応じて、「運動」「創作」「身辺自立」なども組み合わせ、支援を行っている。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議の依頼があれば適任者が参加している。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	80	20	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に利用者の様子を確認するなどして適切な支援が行えるよう情報共有を行っている。 ・送迎の調整を学校へ依頼する際は、電話連絡するなど適切に行っている。また、利用者と保護者にも連絡をすることでより密に連絡調整ができるように工夫をしている。

関係機関や保護者との連携

22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	40	30	30	・酸素吸入を必要としている利用者に対しては、保護者を通して主治医の指示を確認している。また、予測されるケースを把握し、家庭と密に連携をとっている。	
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	30	30	40		・必要なケースが発生した場合は、情報を共有するなどの体制を整えていく。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	30	60	10		・今後は移行していくケースも増えていくと予想される。将来(就労や自立的生活など)にどうつなげていくかを考えた支援、また特性など利用者の情報を丁寧にアセスメントし提供できるよう整備していく必要がある。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	70	20	10	・市や県の主催する研修に必要であれば職員が出席している。	
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	40	20	40	・地域の公園での活動、近隣の清掃活動、避難訓練などの活動を通して地域や社会の人との関わりを持てる機会を設けている。	・障がいの有無という基準や視点ではなく、地域の子どもの活動参加の機会を今後も確保できるようにしていきたい。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	50	10	40	・参加できるよう職員体制を整えるようにしている。	・今後もできる限り参加し、知り得た情報を職員間で共有して支援につなげていくよう努力する。

28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	90	10		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の送迎時に活動を報告すると同時に、利用者の課題や今後の支援についても共有するように努めている。 ・成長段階で出てくる課題に対して、様々なツールを活用して保護者と情報を共有し、支援の方向性についても話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も送迎時や面談、電話などあらゆる手段を活用し、利用者の発達や課題の共有や支援の方向性について保護者と活発な意見交換ができるよう信頼関係を築いていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20	50	30		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の対応力の向上のためには、職員のスキルアップが不可欠であり、どのような研修機会を設けるのがよいか、職員間で協議したい。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100			<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に丁寧に説明を行っている。 	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	90	10		<ul style="list-style-type: none"> ・電話、面談、LINEなど、様々な方法で相談を受けている。その場で返事が難しい場合は、職員間で共有し事業所として助言や支援を行っている。 	
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60	40		<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会が存在しないので、直接的な支援は出来ていないが、保護者が参加できる企画を開催するなど、保護者同士が交流できる場を設けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの活動の様子を見学してもらう場などを通して保護者同士が交流できるような機会の提供が出来るように工夫する。

保護者への説明責任等

33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100			<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった場合の対応方法については、苦情の内容と状況の把握、対策を考えて報告書を作成し苦情に対応できるよう職員間で情報共有をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時の重要事項説明書等の説明の際に苦情対応についての説明をしているが、変更があった場合や年度替わりには改めて説明するように努めていく。
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	90	10		<ul style="list-style-type: none"> ・システム(HUG)上に活動報告を載せて閲覧できるようにしている。 ・土曜日、祝日の活動予定はあらかじめ周知している。 	
35	個人情報に十分注意している	100			<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いに関することについては必ず書面を用いて説明をし同意を得ている。 ・個人情報を取り扱う際は、その都度書面の確認を行い十分に注意して扱っている。 ・特に写真データの取り扱いについては、年に1度書面の提出をお願いしている。 	
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対しては、それぞれの特性に合わせた伝達方法を職員間や保護者と共に情報共有し確認している。 ・送迎時、面談、電話など情報共有の方法については、その実情に合わせて様々な方法を組み合わせて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達をこまめに行うことで、利用者や保護者に安心感をもってもらえるように努力していく。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	60	20	20		<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを行うことで地域の方々にも足を運んでもらえるよう取り組みを考えていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	70	20	10	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアル(連絡体制を含む)を作成しHPにて公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各マニュアルを定期的に見直し、必要に応じて変更、修正、追加をし、常に新しいマニュアルを周知できるように努めていく。 今後もHPやLINEで再周知を行っていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	70	10	20	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の訓練を実施できるよう努めている。 消防署や防災センターなどを見学する機会を設けるなどしている。 BCPの検証もおこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常災害だけではなく、不審者対応や防犯など情勢に応じた勉強会や訓練を行えるようにしたい。 救護や防災などに関する研修に参加し、新しい知識や技能の習得を目指していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	90		10	<ul style="list-style-type: none"> 職員は定期的にセルフチェックを行い常に意識して支援にあたるように努めている。 セルフチェックをもとに職員間で確認をし、客観的な視点でも確認できるようにしている。 虐待防止委員会が中心となり職員向けの研修も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社内研修を行う以外にも、外部の研修に参加できるよう体制を整える。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	90		10	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束等適正化委員会を設置し、身体拘束に該当する可能性のある場合の対応についての検討を行っている。 	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80	10	10	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントで聞き取りを行い、アレルゲンのあるものを使用しない、代替品を用意するなどの対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントでの聞き取りのほか、定期的に確認を行い、変更があった場合はアセスメントシートの変更も行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100			<ul style="list-style-type: none"> 日々の打ち合わせで事例を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有だけにとどまらず、事例検討を適宜行うように努めていく。